



ICANN78 政府諮問委員会 (GAC) 会合報告

2023年11月30日

総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部 データ通信課

課長補佐 片柳 早苗

目次

1. 政府諮問委員会（GAC）会合の概要
2. GAC会合での主な議題
 - （1）新gTLDの次回募集
 - （2）DNS不正利用
 - （3）登録データリクエストサービス（RDRS）
3. その他



会場：コンgress・センター ハンブルク

1. 政府諮問委員会（GAC）会合の概要

- ① 開催日：2023年10月21日（土）～10月26日（木）
- ② 開催地：ドイツ連邦共和国 ハンブルク市 ※現地とオンラインのハイブリッド開催

総務省（データ通信課）から、西潟課長及び荻原官が現地参加
望月補佐及び片柳補佐が主要なGACセッションにオンライン参加

- ③ 参加国・機関：93の国・地域、8の団体（オブザーバー）が出席
- ④ 会合における主な議題
 - （1）新gTLDの次回募集
 - （2）DNS不正利用
 - （3）登録データリクエストサービス（RDRS）

等



会合の様子

2. 主な議題 (1) 新gTLDの次回募集

1. これまでの経緯

- 2023年7月31日、ICANN事務局は理事会の指示を踏まえ、新gTLDの次回募集に係る最終報告書※¹に基づき「The New gTLD Program: Next Round Implementation Plan※²」を公表。

※1 <https://gns0.icann.org/sites/default/files/file/field-file-attach/final-report-newgtld-subsequent-procedures-pdp-02feb21-en.pdf>

※2 <https://newgtlds.icann.org/sites/default/files/new-gtld-next-round-implementation-plan-31jul23-en.pdf>

- 当該最終報告書における理事会への勧告のうち、2023年3月時点で保留とされていた38項目について、本年9月時点においては、18項目が採択、7項目が未採択、13項目が保留とされていた※。

※ 本年10月26日（ICANN78ハンブルク会合最終日）に開催された理事会において、保留とされていた13項目のうち10項目が採択された。

2. 今回のセッション概要等

- ICANN理事会、GNSO及びALACとのバイ会合が実施されたほか、GACにおいても最近のICANN理事会決定への対応等について議論が行われた。
- GACコミュニケにおいて、オークション、ラテン文字におけるダイアクリティック（アクセント記号等）、新gTLDの次回募集に係るGACコンセンサスアドバイス・早期警告（Early Warning）及び申請支援プログラムが、GACの重要課題と位置づけられた。
- 新gTLDの次回募集に係るガイドブックにおいて、Closed Generic gTLD※の申請が認められないことを明記するよう、ICANN理事会に対して勧告（GACコミュニケに記載）。

※ 申請者が独占的に利用可能なgTLD。前回の新gTLD募集（2012年）では、Closed Generic gTLDの申請は行われなかった。

2. 主な議題 (2) DNS不正利用

1. これまでの経緯 (日本の関わり方も含む)

- 日本は、まんが海賊版対策の一環として、ICANN70オンライン会合（2021年3月）以後、インターネット上で不法行為を行う者のドメインホッピングに関する問題提起や議論の必要性について積極的に発信してきた。
- 2023年5月29日、DNS不正利用の抑制等を目的としたRA及びRAAの改定案のパブリックコメントが開始、同年8月1日に結果が公表。改定案については、その是非について、10月9日から12月8日まで、全てのレジストリ及びICANN認定レジストラによる投票が行われている。

2. 今回のセッション概要等

- RA及びRAAの改定案の策定の経緯やその内容についての説明のほか、DNS不正利用の状況やRA及びRAAの改定効果等の測定、DNS不正利用による被害の現状、DNS不正利用活動報告（DAAR）ツール、ccNSOのDNS不正利用常任委員会（DASC）の活動について説明があり、これらについての質疑応答・意見交換が行われた。
- 日本からは、①RA及びRAAの改定箇所の解釈等を示すガイダンスと既存の条文との関係※1、②DNS不正利用について今後想定される議論について質問したほか、SAC115※2における「DNS Abuse」の定義の見直しの可能性も含め、現在のDNS不正利用の定義に含まれないインターネット上での悪質な行為をRA及びRAAの規定の対象に含めることについて更なる議論を深めていきたい旨発言。

→ ①については契約全体に新しい文言の解釈が適用される可能性があるが現時点では未定、②については今後の論点は柔軟に考えることができるとの回答。

※1 一例として、RAA3.18.1（既存の条文）において規定されている「Registrar shall take reasonable and prompt steps to investigate and respond appropriately to any reports of abuse」と、RAA3.18.2（新設の条文）において規定される「Registrar must promptly take the appropriate mitigation action(s) that are reasonably necessary to stop, or otherwise disrupt, the Registered Name from being used for DNS Abuse」との関係が挙げられる。

※2 SSAC Report on an Interoperable Approach to Addressing Abuse Handling in the DNS

- これらはGACコミュニケのDNS不正利用セクションに反映されている。

2. 主な議題 (2) DNS不正利用

3. ICANN78 GACコミュニケ (該当箇所抜粋、仮訳)

IV. Issues of Importance to the GAC

5. DNS Abuse

During ICANN78, the GAC welcomed updates on advancements in DNS Abuse measurement, examples of DNS Abuse mitigation solutions, and an update from the ccNSO DNS Abuse Standing Committee.

The GAC urges the Contracted Parties to adopt the DNS Abuse amendments so that baseline obligations for gTLD registries and registrars regarding DNS Abuse are established in ICANN's contracts. The GAC also urges ICANN org to provide the community with the ability to monitor the implementation of the amendments.

(以下略)

ICANN78において、GACはDNS不正利用の実態把握の進捗、DNS不正利用抑制策の例、及びccNSO DNS不正利用常任委員会からの最新情報を歓迎した。

GACは、DNS不正利用に関するgTLDレジストリとレジストラの基本的な義務をICANNの契約に定めるため、DNS不正利用に係る契約改定案が採択されるよう契約当事者に投票を要請する。また、ICANNに対し、改定後の契約の履行状況を注視し、関係者に情報提供するよう要求する。

2. 主な議題 (3) 登録データリクエストサービス (RDRS)

1. これまでの経緯

- ICANNにおいては、2018年にGDPRが施行されたことに伴いWHOISでも非開示となっている登録者のデータについて、参照者の資格等に応じて開示するためのシステムが検討されてきたところ。
- 2020年7月に公表された「EPDP Phase2」の最終報告書※において、Standardized System for Access and Disclosure (SSAD) システムの仕様が勧告されたが、運用コスト等の面で問題があり、2022年9月にICANN事務局がSSADの代替システムを提案。
※ <https://gnso.icann.org/sites/default/files/file/field-file-attach/epdp-phase-2-temp-spec-gtld-registration-data-2-31jul20-en.pdf>
- 2023年2月、ICANN理事会が当該代替システムを承認。当該代替システムは、現在Registration Data Request Service (登録データリクエストサービス。RDRS) と呼ばれ、同年11月から2年間、レジストラの自主的な協力を得る形で試行運用が開始されることとなった。

2. 今回のセッション概要等

- RDRSの試行運用開始までの経緯や今後のスケジュールについて説明があったほか、使用方法等が紹介された。
- 日本からは、長い議論の末にRDRS試行運用が開始されるに至ったことを歓迎するとともに、RDRSは現行のDNS不正利用の定義に該当しないインターネット上の不法行為の対策として必要なものである旨発言、ICANNの取組を支持。
- また、RDRSの試行運用が開始されることについて、国内の関連するコミュニティへの周知を積極的に行うとともに、レジストラが積極的にRDRSを使用するようGNSOに対し検討を促すべきである旨発言。
- これらはGACコミュニケのRDRSに反映されている。

2. 主な議題 (3) 登録データリクエストサービス (RDRS)

3. ICANN78 GACコミュニケ (該当箇所抜粋、仮訳)

IV. Issues of Importance to the GAC

3. Registration Data Request Service (RDRS)

The GAC welcomes the launch of the voluntary Registration Data Request Service (RDRS) this coming November. The GAC encourages its members to inform their respective relevant communities of the launch. (略) To promote usage, the GAC notes that the Board urged the GNSO Council to consider a Policy Development Process or other means to *require* registrars to use the RDRS. The GAC remains supportive of this idea.

Other factors that will impact usage relate to whether users submitting legitimate requests receive data relating to the underlying registrant as opposed to information related to a privacy or proxy service. Currently, many leading registrars provide privacy/proxy services to registrants by default. (略)

The GAC observes that the RDRS's success depends in part on how satisfied users are with the system with positive experiences promoting repeat usage.

Finally, the GAC also encourages users of the system to provide feedback on the effectiveness of the RDRS.

GACは、来る11月の、自主的なRegistration Data Request Service (RDRS) の開始を歓迎する。GACは、メンバーに対し、それぞれの関連コミュニティにサービス開始の周知を勧奨する。(略) RDRSの利用促進のために、GACは、理事会がGNSO評議会に対してレジストラにRDRSの利用を義務付けるためのPolicy Development Processやその他の手段を検討するよう促したことを認識する。GACはこの考えを支持する。

RDRSの活用に影響を与える要因として、正当なリクエストを送信したユーザーが、プライバシー/プロキシサービスによる情報ではなく、登録者の真の情報を得られるかが挙げられる。現在、主要なレジストラの多くは、登録者にプライバシー/プロキシサービスをデフォルトで提供している。(略)

GACは、RDRSの成功は、ユーザーが繰り返し利用したくなるポジティブな体験をし、システムにどれだけ満足するかに依存していると捉えている。

最後に、GACは、RDRSのユーザーに対し、RDRSの有効性に関するフィードバックを提供することを勧奨する。

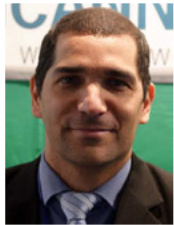
3. その他

1. GAC副議長選挙

- GAC副議長の任期満了に伴う副議長選挙が実施された。
- 合計8人の立候補があり、選挙の結果、現職のZeina Bou Harb氏（レバノン）、Nigel Hickson氏（英国）、WANG Lang氏（中国）が再選し、Christine Arida氏（エジプト）、Thiago Dal-Toe氏（コロンビア）が新たに選出された。 ICANN79サンファン会合（2024年3月）終了後の体制は以下のとおり。

議長（2023年3月～2025年3月）（任期 2年）

<任期2年目>



Nicolas Caballero
(Paraguay)
MITIC
ICTアドバイザー

副議長（2024年3月～25年3月）（任期 1年）

<現職>



Zeina Bou Harb
(Lebanon)
OGERO Telecom
国際協力部門長

<現職>



Nigel Hickson
(United Kingdom)
DSIT インターネット
ガバナンス政策担当

<現職>



WANG Lang
(China)
CNNIC
国際部門長

<新規>



Christine Arida
(Egypt)
NTRA
戦略アドバイザー

<新規>



Thiago Dal-Toe
(Colombia)
MinTIC
アドバイザー

<落選>



Tomboye Ibrahim
(Tchad)
ADETIC
ドメイン名・IPアドレス課長



Ken-Ying Tseng
(Taiwan)
台湾政府AI・プライバシー
アドバイザー



Pär Brumark
(Niue)
ニウエ政府
アドバイザー

- 議長：任期2年、1回のみ再選可能
- 副議長：任期1年、2期まで連続して再選可能

3. その他

2. 能力開発ワークショップ

- ICANN78ハンブルク会合の最初の二日間、能力開発ワークショップが開催された。
- 一日目はインターネットのガバナンスやエコシステムにおけるICANN（及びGAC）の位置づけや役割、二日目は alternative namespaces等のemerging technologiesがテーマとして設定され、専門家からの説明や参加者間の意見交換等が行われた。

3. ハイレベル政府会合

- ICANN会合のホスト国政府、ICANN及びICANN GACが共同で開催する会合。ICANN GACに参加する国・地域及び国際機関の高官が出席し、インターネットに関する政策課題等について議論が行われる。
- 2012年から約2年おきに開催されてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中断していたもの。
- 次回会合は、ICANN80キガリ会合（2024年6月10日～12日）に先立ち、同年6月9日に開催される予定。ハイレベル政府会合の議題等については、現在も継続的に（intersessionally）議論が行われているところ。



会場：キガリ コンベンションセンター（GAC会合資料より抜粋）

ご清聴ありがとうございました

